

# 大学のオフィス家具等の耐震対策

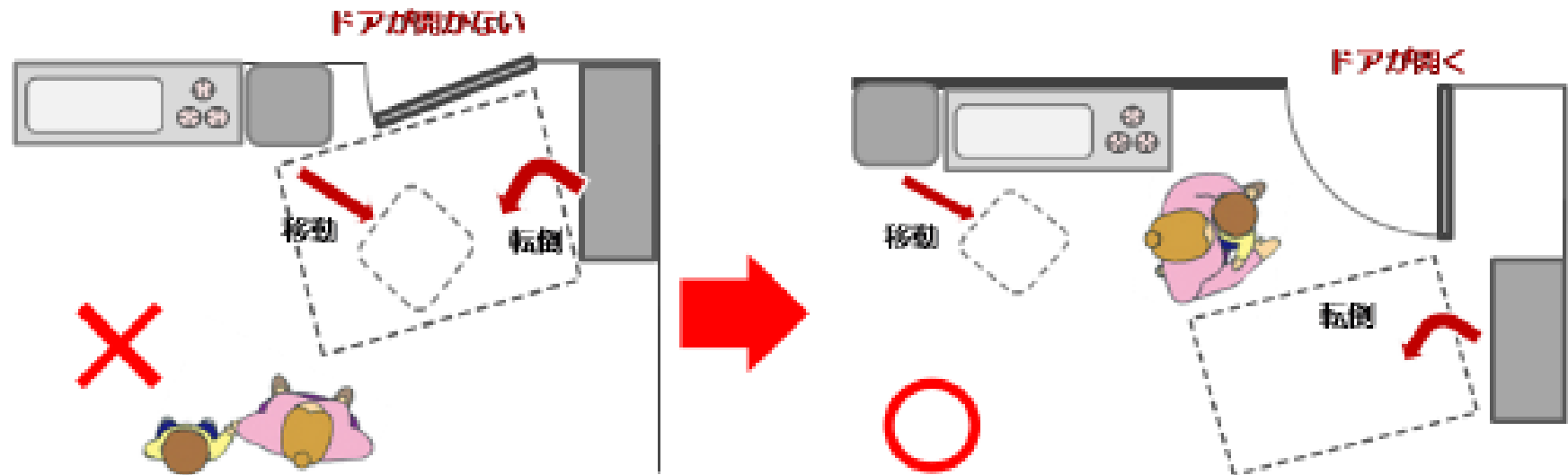
## 〈 職場巡視等におけるガイド 〉

- 家具の配置 → 避難通路確保
- 家具の固定 → 転倒防止、避難通路確保
- 棚の書籍・物品の固定 → 落下防止

など、オフィス、実験室内の耐震対策をまとめました。

- ※ 巡視時に指摘・指導等を行う際のガイドとして、また研究室への説明・手渡し用資料などにご利用下さい。

# 1. 家具の配置と避難路の確保



## Point

- メインとなる避難通路は直線状に確保し、幅1.2m以上を確保しましょう。
- 避難通路、出入口周辺に転倒、移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。
- 引き出しが飛び出すことで、つまずいてケガをしたり避難の妨げになることがあるので、家具類を置く方向にも注意しましょう。
- 避難誘導灯がどこからでも見えるよう、遮蔽物を置かないようにしましょう。

転倒した場合に避難路を塞ぐ可能性がある場合は、転倒防止対策や当該物の移動を強く推奨します。

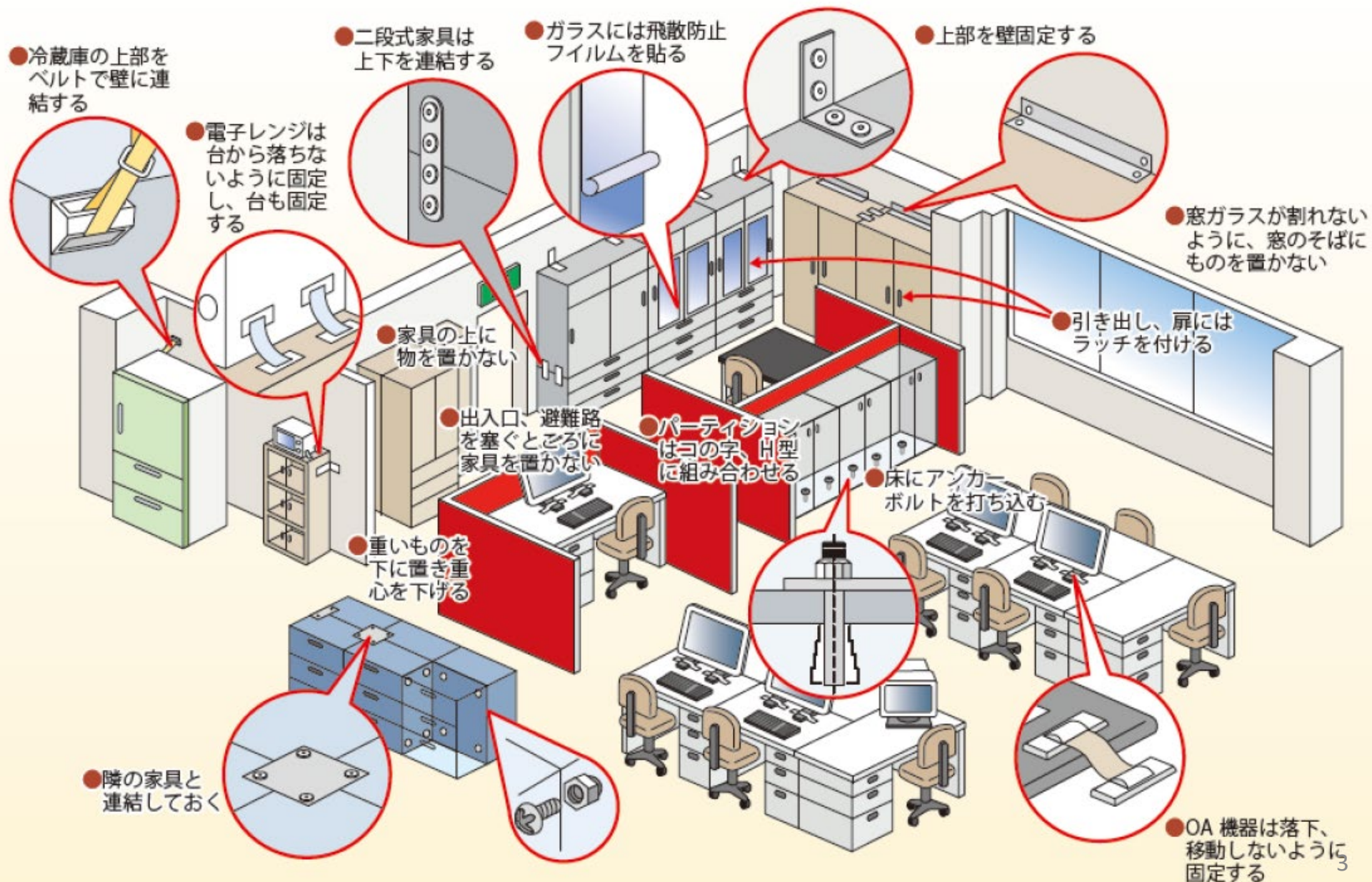
例：書棚，棚，冷蔵庫，  
コピー機，靴箱等

※ 東京消防庁HP参照

## 2. 家具等の転倒防止対策（一般例）

オフィス家具等の転倒防止対策の例

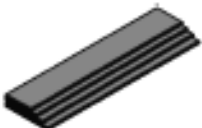






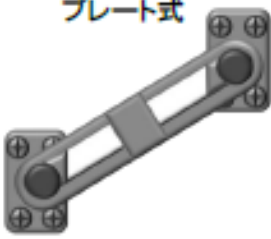



※東京消防庁HP参照



# 3. 家具転倒防止グッズの効果

## ● 地震動に対する対策器具の効果

転倒防止器具は、震度6強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。

使用条件	器具の効果 ← 小 → 大 →				
単独使用	ストッパー式  マット式 	ポール式 	L字金具 (スライド式)  ベルト式  チェーン式 	L字金具 (上向き取付け)  プレート式 	L字金具 (下向き取付け) 
	家具、壁面や器具に十分な強度が必要				
組合せ使用	家具と天井に十分な強度が必要		ポール式 + マット式 	ポール式 + ストッパー式 	

本学では「L字金具」レベル以上を推奨します。  
( → )

**推奨**

# 4. 家具転倒防止グッズの効果—具体例

良い例(効果順)

大

効果

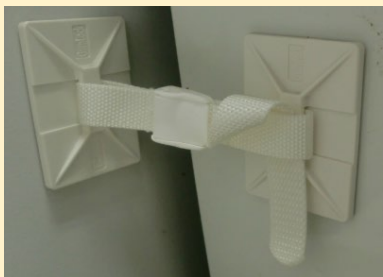
小

推奨

推奨しません。



固定ベルトの例  
(商品名=ガムロック等)



粘着式



壁取り付け時の注意  
事項はp8も参照し  
てください。

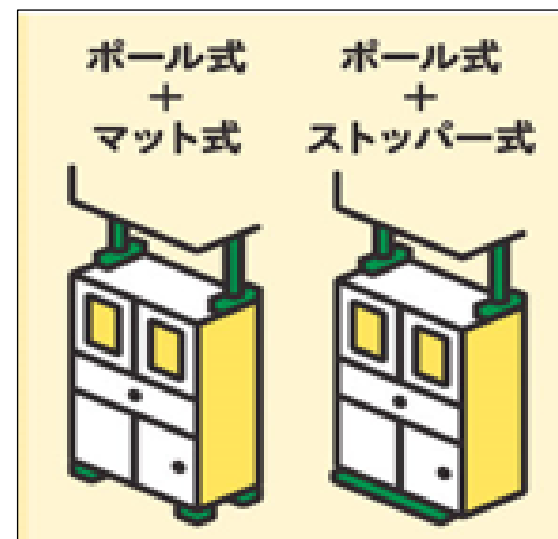
# 「天井ポール」は一般に推奨しません



## 推奨しない理由

- 揺れに対する耐久性が不足
- 吊り天井は強度が弱い。  
(写真、軽量ボード等を使用)

## ポールの例



※他の効果の大きな対策を検討

→ L字金具，固定ベルト，隙間家具の利用等

※ストッパー・耐震マットとの併用ならOK (右上図)

→ ポールは短く (長いと強度不足)，奥の壁際に設置。

ポール使用時の注意事項はp8も参照してください。

# 書棚や物品棚からの落下防止例

## 悪い例



「書籍落下防止テープ」は耐震性が不十分なので、下記のバーやバンドの代わりとしては推奨しません。

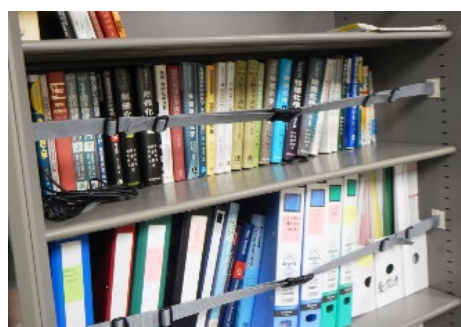


## 落下防止バー



執務机等、人が通常いる位置には、これらを強く推奨します。(胸の高さ以上の棚)

## 落下防止バン



机の上に置いた本棚の転倒防止にも注意。

# 強度の弱い壁，天井に固定する場合の注意事項

◆ 軽量ボードの壁や「吊り天井」には特に注意が必要です。

## L字金具等で壁に固定



壁内部の「梁」（柱や軽量鉄骨\*の支柱）の位置に合わせて鉄のビス等で固定する。（施工業者に依頼するとよい）

## ポール等で天井を利用 (ストッパー・耐震マットなどと併用のこと)



ポール等の位置を天井の「梁（軽量鉄骨\*の支柱など）」に合わせる

\* 軽量鉄骨の素材は鋼，アルミ-亜鉛合金等です

※ 床・壁にビスやボルト等を打つ場合，ガス等の配管を傷つけないように注意  
→ 判断に迷う場合には，部局安全担当に相談のこと